

# 令和2年度「自己評価」 結果公表シート

学校法人 善行学院  
善行森の幼稚園

当園ではこの度、令和元年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、アンケートを実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。今年度のアンケートの結果及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

## I. 園の方針

<p><b>保育方針</b></p> <p>善行森の幼稚園は、毎日の生活の主役が子どもたちです。</p> <p>一人ひとりが自分で考え、行動し、その子なりの歩みで、一步一步成長していき多くの人と関わりながら自分を創っていくことができるよう、一人ひとりの子ども達を見守っていきます。</p> <p><b>特色</b></p> <p>①モンテッソーリ教育</p> <p>同じ年齢であっても発育や発達状態に大きな差のある子ども達。 「モンテッソーリ教育法」を指針とし、それぞれの発達や発育状態にあった保育を目指しています。</p> <p>②異年齢混合クラス</p> <p>3歳、4歳、5歳の異なった年齢の子どもたちが同じ部屋で生活することにより、大きい子なり、小さい子なりの人間関係を学んでいます。集団生活においての様々なことを「見て学ぶ、一緒にやって学ぶ、教えて学ぶ」ことができます。</p>
--

## II. 今年度の重点目標

<p>本園の保育方針や特色を守りつつ、これまでの評価によって出てきた改善点と向き合い向上心をもって保育を行っていく。その為に、職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーションを大切に、改善点発見の為に研修を実施する。また個々の子どもの様子や成長を保護者に伝え、幼稚園が子育ての一助となるような存在となる。</p>
--

## III. 評価項目と取組み状況

重点目標	取組み内容	取組み状況
1 改善点の発見	(自己評価アンケート) 先生に対して、学校評価項目の点検アンケートを行い、改善点を見つけ出す。	A 文科省の学校評価ガイドラインから抽出した100項目に関して、教員にアンケートを行った。アンケートの平均点と、園長の付けた点数とを比較し、ギャップが大きい箇所を課題と捉え、次年度以降重点的に取り組むこととした。
	(行事の感想意見収集) 保護者の方に、保育参観の感想や各行事の感想、連絡帳によるご意見を伺い、園への期待や満足度、問題点を見つけ出す。	B 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため4・5月の休園、各種行事は例年通りの開催ができなかった。このような状況でも通常通りの開催を望む意見もあったが、園からの状況説明などの発信を行い、どうすれば開催できるか検討し、卒園式では保護者1名という限定であったが通常に近い形で開催できたことに感謝する意見もいただいた。
	(連絡帳や面談のコミュニケーション) 家庭との連絡を取るためのノートを用意し、家庭ごとに園に伝えたいことを書いてもらっている。	B 年度を通して連絡帳にて意見がある時に自由に書くことが出来る。その中では保育に関すること、子育てに関すること、バス通園に関すること、面談の希望など内容は多岐にわたる。毎日提出されたノートには目を通して、連絡事項の見落としや失念など時折発生した。面談では保育後に随時面談する機会を設けており、個々の事情に応じた対応ができるようにしている。その結果を職員が共有できるように職員ノートにも記すようにしている。

### 【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## IV. 今後取り組むべき課題

1	園内研修の充実	園長の考えとして、「幼稚園の教職員として、学び続ける姿勢が大事」であると本園では考えている。従来も研修の参加日数は非常に多かったが、受けっぱなしになってしまっていることもあった為、次年度からは外部研修で学んだことや気づいたことを、毎月の園内研修で発表して共有することとする。今年度においては研修会が軒並み中止となり、園内研修として普段の保育の場面ごとに絞って本園の方針の再確認を行う。
2	来園者への対応	保護者の方とのコミュニケーションや、来園者の方への対応として、善行森の幼稚園全職員が笑顔と挨拶を心掛ける。明るい声での電話対応や地域の方々へのあいさつ、速やかな対応を目指し、園内にいらっしゃる方に対しても教職員から積極的に、声を掛けることで、コミュニケーションも生まれやすく、不審者対策にもなると考えている。保護者には名札を配布し来園時やお迎えの時には必ず首から下けてもらうよう徹底する。
3	魅力ある園づくり	毎日保育を展開していく中で、子どもたちが安心して生活できる環境を目指し大きな変化のないように保育を行っているが、それは時折情性を生むことにつながる。保育をしていく中で、それぞれの行事には何の意味と目的があって行うのか職員も再確認する。日常の保育では常に相手は何を望んでいるのか、どのような対応が好ましいのかその場面場面で考え、適切な対応をすることが、子どもや家庭と職員のつながりを深め、魅力ある幼稚園につながると考えている。次年度以降もこの目標を掲げ、教職員一同努力していくこととする。